Photo ふなばし

とくしゅうPART1

南部清掃工場いよいよ本稼動

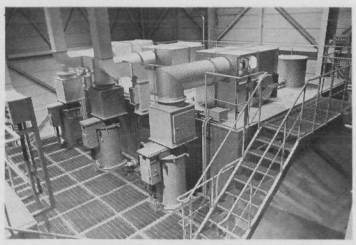
とくしゅうPART2

ふなばしまちなか あの懐かしいお店やさん

本町4・原田靴店

●市政トピックス●街角ホットニュース
●私のカメラアイ
●WE ARE IN FUNABASHI
●サークル通信
まちなかの文化財／カメラ講座
ふなばしの民話

vol. 33
広報ふなばし写真版



南部清掃工場

とくしゅう PART1

南部清掃工場 いよいよ本稼動

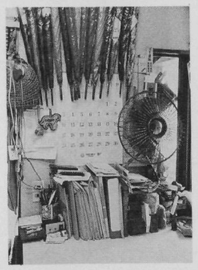
南部清掃工場の頭脳 中央制御室。
ここでは、工場の運転状況を示すデータを集中監視して、必要に応じて機器の遠隔操作を行っている。

とくしゅう PART2

ふなばしまちなか あの懐かしいお店やさん

林立するビル群、様々な建設工事のつち音、そして生き生きとした人々の流れ。今、船橋は、今までにも増してその姿を変えようとしています。しかし、そんな船橋の街中にも懐かしい風情を残す町並みやお店がまだまだ沢山あります。今回は、そんな懐かしい風景を求めて街中に出ました。

仲通り（本町４）



森田呉服店（本町４）

従来のごみ処理施設のイメージを一新し、隣接する海浜公園と調和のとれた外観を持つ南部清掃工場。建設費は93億８千万円。市内のごみは、９月１日から北部清掃工場と２か所で処理されている。

８月30日行われたテープカット。左から、千葉満市議会議員、滝口四郎市議会議長、大橋和夫市長、野村誠一助役、米井昌夫市議会議員。

多くの関係者を集めて行われたしゅん工式

市内で出されるごみの量は一日約530トン。南部清掃工場では日量375トンのごみを処理することができる。

炉内温度は850度。不用意にのぞくと目を痛めることもあるという。

ごみクレーン操作室

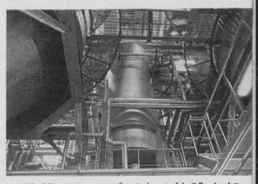
今、自然環境問題が世界的に大きくクローズアップされていますが、ゴミの処理も地方公共団体にとっては大変難しい仕事の一つとなっています。

幸い船橋市では計画的にゴミ処理施設を設置してきましたが、このほど潮見町に４年継続事業で建設を進めてきた、南部清掃工場が完成、８月30日しゅん工式が行われました。

19万３０８４トン。これは昭和63年度の市内のゴミの量です。このうち可燃ゴミは16万５６７４トン。市庁舎のなんと７杯分にも相当し、これらの処理費用は64億円にものぼります。こうしたゴミの量は年々増加の一途をたどっています。

完成した南部清掃工場は一日に３７５トンのゴミを処理できますが、この工場の稼働で船橋市のゴミは平成８年まで焼却が可能になりました。

工場の特徴は、ゴミを焼却する際発生する大量の熱エネルギーを利用して、施設内の冷暖房、給湯をまかなうほか、施設内で使用する水（飲料水以外）はすべて再利用できるなど、省エネルギー工場となっています。また、この熱エネルギーを利用したレクリエーション施設の建設計画も進めています。これは、お隣の海浜公園と一体となった施設で、25メートルの温水プールや大浴場など子供からお年寄りまで楽しめる施設となる予定で、平成４年には完成の見込みです。また、この工場には見学コースも設けられています。皆さんも是非一度お出かけください。



複雑にパイプが走る施設内部

ＪＲ下総中山駅から国道14号線に出た角にある石井酒店。店は100年以上の歴史があり、今では５代目の息子さんが配達に走り回っている。（本中山２）

「御琴・三味線師、菊屋楽器店」のご主人加藤憲吾さん。ご自身も三味線が大好きで、芝居や歌舞伎のテレビは欠かさず見るという。三味線の皮は、キズが少なく、若くて子供を生んでいないメスネコのおなかの皮が一番いいそうだ。（本町４）

時々、日本酒の古いポスターを欲しがる人もいるという。

「塩」の看板がいかにも歴史を感じさせる。

昭和初期に建てられた藤井たばこ雑貨店。最近の住宅事情を反映してか、小さな熊手がよく出るそうだ。（本中山１）

ご主人の藤井きよ子さん

食べ方が分からないミニ料理教室が始まるときには、店先でバーとは一味違う。ここには、ス人情がある。

昭和15年創業、田口青果店（本町４）

ここ仲通りに店を開いて35年という菊屋楽器店

三味線の皮張りは、湿度の関係から、晴天の日でないと出来ない。

「このあたりじゃ、こういう商売はめずらしいでしょ。よく三味線の音なんかたててると、歩いている人が店の中をのぞきこんだりしますよ…。」

大きな体に汗をびっしょり浮かべながら、三味線の皮の張り替え仕事に精を出す加藤さん。市内では勿論、この近郊では数少ない「琴・三味線師」の一人である。

ここは、京成船橋駅前通りから少し先を左に入った仲通り商店街。狭い路地裏通りの両側には、際物屋、タタミ屋、生花店、おでん屋など様々な商店がいっぱいに建ち並び、昔懐かしい面影を残している。加藤さんの店は、その一角に溶けあうように並んでいる。

今回は、市内の街中にまだまだ数多く残っている、昔懐かしい風情を残したお店を求めて歩いてみることにした。

加藤さんのお店を出て仲通り商店街を更に奥に進むと、山口横町との十字路がある。この角には、今年５月に勤労市民センターがオープンした。昔ながらの路地裏通りに、明るく近代的なビルが出現し、この十字路の雰囲気もガラリと様相を変えた。

仲通り商店街は、山口横町を横切ると御殿通りという名に変わる。家康が作った日本一小さい東照宮のあるところである。その御殿通りを更に先へ行った右側に、靴の製造、販売をしている原田さんのお店がある。

「ここでこの商売を始めて、もう41年になるねえ。お客さんは、ほとんどが常連さんでね。もう何年も靴を作らせてもらってます。」

原田さんの店は、道路に沿ったほんの10坪ほどの場所に三角形のような感じで建っている。狭い店内の壁には、様々な靴がいくつも飾られていて、そのすぐ下で原田さんが一心に靴作りに励んでいる。「足の形はみんなちがいますからね」足元の小さな引き出しを開けると、中にはお客さんの靴のデザインの注文を丹念に書き込んだメモが沢山入っていていかにも温かい「手作りの靴」を感じさせた。

船橋は、昔から人が集まってくるところであった。特に、御成街道（東金街道）、佐倉街道（成田街道）、上総街道（行徳街道）などが集中する場所で、江戸後期には宿場町として大いに繁栄し、旅籠（はたご）や商家が数多く建ち並んでにぎわったという。現在の船橋にも、こうした流通の基盤は引き継がれ、非常に商工業の発達した街になった。

市では、大橋和夫市長の下、「活力ある近代的都市づくり」を推進するため、この中心部付近ではＪＲ船橋駅北口地下駐車場の建設や、南口再開発事業、京成本線連続立体化事業など、様々な施策が進められている。が、また一方、こうした永く歴史のなかで育まれてきた職人芸や、農漁業をはじめとした地場産業の育成、発展にも力が入れられている。

さて、今日の最後の取材は…。夕暮れの本町通りに一際懐かしい明かりをこぼす、森田呉服店の暖簾をくぐってみることにした。

買い物客でにぎわう夕暮れ時の御殿通り（宮本１）

フラワーショップ「ゆり」（本町４）

実用呉服が商いの中心。友禅などの計り売りもしている。

江戸終わりごろ創業した森田呉服店（本町4）。ここ本町通りには明治10年ごろ店を出した。今も、その当時の建物を増築して商売を続けている。

「オーダーメイドの靴は疲れない」と評判の高い原田靴店（本町4）。昭和23年からここ御殿通りで商売を続けている。

森田呉服店5代目ご主人の森田雅巳さん

昭和22年創業、石橋金物店（本町4）。店のシャッターを開け、雑貨類を店先に並べるのに1時間以上かかるそうだ。地震が起きても、品物が落ちたことは一度もないという。

昭和27年からここに店を構えている石井洋傘専門店（本町2）。本町通りと駅前通りとの交差点に位置するため、道を訪ねる人が一日中絶えないという。

雨が降り始めて店が忙しくなる。夜も人の往来が無くなるまでは店を閉められない。安いビニールがさは骨がもろく、特にビル風に弱いという。

吉種乾物店の店先に並ぶ乾物

戦後始めたこの商売。後継ぎがないのが悩みというご主人の吉種鶴吉さん（83歳）

テレビ局が取材に来たこともあるＪＲ船橋駅前の吉種乾物屋（本町4）。魚の乾物をおもに扱っている。

買い物客でにぎわう仲通り。車の騒音を離れた路地裏では、人の歩みと同じテンポで時が過ぎる。

「人のつながりが商売の基本ですね。」とおっしゃる清水屋京染店二代目ご主人の鈴木明男さん。世田谷にもお得意様がいるという。店は先代から50年以上続いている。

中山法華経寺参道に店を構える清水屋京染店（本中山1）

本堂の中は夏でも涼しく、外の暑さを忘れさせてくれる。

まちかの文化財

神保山西福寺

（大神保町）

門前の傍ら、決して広くはないが、船橋には珍しく溜池がある。水蓮が水面一杯におおい、水辺にはおたまじゃくしの姿も。

境内に足を踏み入れれば蟬しぐれ。都会の真ん中で聴く蟬の声とは一味ちがう。やはりこれ、田舎の油蟬だな。ウン、そうだな。

西福寺はいま面目一新した。昭和五十六年五月、本堂他の改築成り、瓦葺入母屋造り、唐破風（向拝）の軒裏には、第三十三世日龍書「西福寺」の真新しい、立派な額も懸かっている。階段下から奥の御本尊（お題目）に合掌をすませて、清掃中の奥さんに声をかけ、立ち話で少し話を聞かせていただく。

――それはもう、一風吹いたら部屋中ごみだらけ煤だらけ、田舎寺とは聞いていたが、これはまた何と荒れ寺な。天井も無く粗壁のまま。ヘビは落ちるわ、夜はネズミに顔を噛まれるわ、気味悪い音に目が覚め電燈をひねってよくよく見れば障子に大きなムカデが……。毎日風呂敷包み二つ並べて泣いていました。そのたびお住職や檀家さんに励まされ気を取り直し、そうだ、死ぬほどがんばってみようと。今やっと地獄から抜け出た気持ちです――こう語ってくれた奥さんの笑顔の、何と美しかったこと。

（文・大木　勲）

市政トピックス

市内最高齢の山崎きよさん（106歳）に記念品を渡す大橋和夫市長。（三山園）

いつまでもお元気で 市内各地で敬老会

皆さんニコニコ楽しそうですね。（下宿自治会館）

9月15日(祝)は敬老の日。市内各町会・自治会などでは様々な敬老行事が行われました。現在、市内にお住まいの満65歳以上の方は約3万6千人。満100歳の方も11人（平成元年12月31日現在）いらっしゃいます。市では65歳以上の皆さんには敬老記念品を贈呈しています。これからもますますお元気で長生きしてください。

葛飾中の体育館では西船地区自治会連合会の敬老会が行われた。

大橋和夫市長を囲んで記念撮影。皆さん背すじがピンとしていますね。（金杉台小体育館）

船橋夏の風物詩 産業まつりに113万人

荒々しい湊町のゆすりみこし

船橋の夏の風物詩「産業まつり」は、7月15日の「ミスふなばしコンテスト」を皮切りに「めいど・いん・ふなばし」「ジョイアンドショッピングフェア」「市民まつり」と行われ、8月5日の「私があげる花火大会」でフィナーレを迎えました。この間延べ113万人の皆さんが船橋の夏を楽しみました。

船橋名物ばか面踊り。その昔、豊漁と漁の安全を祈願してはじめられた。

市内民謡民舞団体や事業所などの協力で盛大に行われた民謡パレード

第22回 関東地区 ろうあ者大会開催される

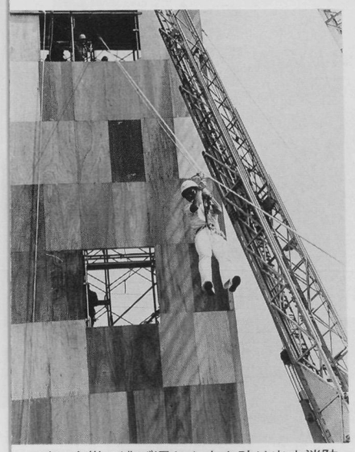
第22回関東地区ろうあ者大会が9月2日(土)・3日(日)の両日約700人が参加して市民文化ホールなどで開催されました。6つの分科会では、資格取得を制限している法律や手話通訳制度の充実などについて、手話による熱心な討論が行われました。

分科会では手話による熱心な討論が行われた

9月1日 いざという時に備えて 防災総合訓練行われる

今年は、日大理工学部習志野校舎を中心会場として、市場小学校、金杉台小学校の市内3か所で訓練が行われた。写真は、日大校舎で行われた三角巾の講習模様。

防災総合訓練は、日本大学理工学部習志野校舎をメーン会場に、市場小学校、金杉台小学校で行われました。各会場では、町会・自治会や小学生による避難訓練や初期消火訓練、また、消防局・消防団による火災防ぎょ訓練や高層建築物火災救出訓練が本番さながらに行われました。



ビル火災で逃げ遅れた人を助け出す消防局救助隊による救出訓練（日大校舎）

初期消火訓練（市場小学校）

煙の中をビニール袋一枚で駆け抜ける煙中非難訓練（日大校舎）

落ち着いて非難できました。（市場小学校の皆さん）

防災フェアちば'89

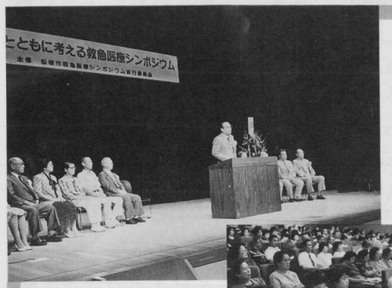
「防災フェアちば'89」が8月24日から26日まで東武百貨店船橋店で開催されました。これは、地震や風水害などに備え、災害に対する意識を高めてもらおうと県が主催したもので、会場にはビデオやパネル展示、各種の相談をはじめ、大声コンテストなどが行われ、子供たちや買い物途中の主婦の皆さんなどでにぎわっていました。

好評だった血圧測定コーナー

テープカットする大橋和夫市長（右）

防災フェアちば'89を記念してJR船橋駅のコンコースでは船橋市消防局音楽隊の演奏が行われた。

「市民とともに考える救急医療シンポジウム



身近な問題だけに参加された皆さんは熱心に耳を傾けていました。

9月2日(土)「市民とともに考える救急医療シンポジウム」が勤労市民センターで行われました。これは、医師、看護婦、一般市民が今後の救急医療の在り方について考えようというもので、会場には約250人が詰めかけ、パネラーの話に熱心にメモをとっていました。

9月9日は救急の日 市内4か所で救急広場開催

人工呼吸の方法を人形を使って体験。

消防局では、救急の日にちなんで市内4か所で「救急広場」を開催。救急実技コーナーや健康相談コーナーでは人工呼吸に挑戦したり、血圧を測ったりと大勢の市民でにぎわいました。

健康相談コーナー

市民ひとことインタビュー

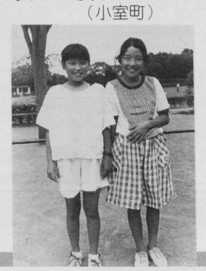
テーマ 地震の時、何を持って逃げますか

友達がたくさん写っているビデオテープとビデオカメラですね。

横山　猛さん（二和東5）

お金がないと何もできないからお金です。

門田真由美ちゃん（右）
小松　広美ちゃん
（小室町）

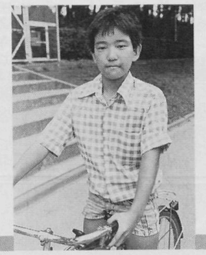


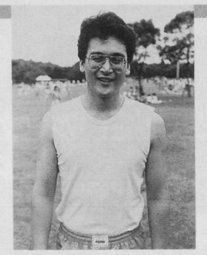
やっぱりこの子以外に持って逃げるものはありません。

山田博美さん
大樹くん（習志野台1）

セキセイインコのモモちゃんとハナちゃんを連れて逃げます。

中村章夫くん（夏見台3）





家族の思い出がたくさん詰まっているアルバムを持って逃げます。

久保田裕志さん（行田1）

街角ホットニュース

レンズがとらえた　わたしのまちのホットな話題

小栗原小学校合奏クラブ 岩手県の児童と音楽交流

船橋市立小栗原小学校合奏クラブが、岩手県東磐井郡千厩(せんまや)町の「都市と農村の音楽交流実行委員会」の招待で8月26日から28日まで同町を訪れ、町立奥玉小学校の児童の皆さんと音楽やキャンプなど様々な交流を行いました。これは、千厩町の地域活性化計画の一つとして、青少年の健全育成と地域文化の向上を目的として、子供たちに生の演奏を聴かせたいと計画されたもの。会場となった奥玉小での音楽交流演奏会では、カルメン前奏曲など7曲を演奏、会場に詰めかけた1000人以上の聴衆を魅了しました。

（撮影：児島憲一教頭）

町営のキャンプ場で奥玉小の皆さんと野外炊飯。メニューはもちろん「カレーライス」

合奏クラブの皆さんは35軒の民家にホームステイ。心のこもったもてなしに感激。

交流演奏会では日本一の演奏を披露

子供会の皆さんが郷土芸能「うちばやし」で歓迎。

世界ペタンク選手権大会に船橋市からチームが出場

スペインのバルセロナで開催される大会に出場するのは、成島博さん（藤原町3）戸松篤司さん(浜町1）奥村正明さん(西習志野4）の3人。15日、宮本公民館で行われた壮行会では、昨年の大会に出場した先輩からの激励に応え、精一杯頑張ってきますと元気に抱負を語っていました。

大会での健闘を誓う船橋チーム。左から戸松さん、成島さん、奥村さん。

もぎたての梨はおいしいナ！

22回を迎えた善意の梨狩り

9月3日(日)、船橋建和工業会（風間茂会長）主催の梨狩りが、市内の心身障害者や三山園のお年寄りなど約400人を招待して行われました。これは同会が毎年行っているもので今年で22回目。参加した皆さんは、もぎたての梨に舌つづみをうったり福引などで楽しい1日を過ごしました。

もぎたてのおいしい梨に思わずニッコリ。

私のカメラアイ

梨園の里　（写真と文）大石　寛（みやぎ台2）

私の住んでいる船橋北部は、御存じの様に雑木林と梨園と畑の間に住宅が点在している様な環境です。この豊かな自然が四季折々の装いを見せてくれます。私は折にふれ、散策がてら好きな写真を撮りに出掛けます。特に二年程前から梨を中心に四季の様子をぽつぽつ撮っています。ネーチャーフォトの感じではなく、梨園を通して私のイメージを表現してみたいと生意気なことを考えて取り組んでいますが、残念なことに出来上る写真は意志と異り、思うにまかせない作品の連続です。

特産物の少い船橋で梨は貴重な特産物の一つでしょう。これからも、春かすみの様に広がる梨の花、夏枝もたわわに実る梨、秋冬に裸になった木肌、そして梨農家の様子など気長に楽しみながら撮り続けてみたいものと思っています。

私のカメラアイ

大慶山住宅自治会

子供みこし、ゲーム、芸能大会、盆踊り、カラオケ大会など盛りだくさんの催しで大にぎわいでした。

（撮影：相沢秀夫さん）

まつりの主役は子供たちですね。

高根東町会

町会の夏まつりのメーンイベントはやっぱり盆踊り。会場となったラドンセンターの駐車場は踊りの輪がいつまでも……。

夏はやっぱり 盆おどり

夏といえば盆おどりですね。この夏市内でも各地で様々な盆おどりが行われました。その中からほんの一部をご紹介します。

手作りが楽しい小室町のまつり。

古和釜恵の郷

カラオケ大会で自慢ののどを披露したあと、八千代若撥会のタイコでみんなで盆踊りを楽しみました。

三山園

やぐらを囲んで踊りの輪、模擬店もいっぱい。スイカ割りゲームでは皆さん大ハッスルでした。

ふなばしの民話　重右衛門ばなし（六）

屋根葺き

〔文・村上昭三〕

重右衛門は、丸山新田(現・丸山一～五丁目）の名主の家に奉公していました。

ある木枯しのびゅうびゅうと吹く寒い冬の日のことです。朝飯の終った重右衛門は、薪が赤々と燃える囲炉裏ばたに居ました。

そこに、旦那が足音高く入って来て

「重右衛門、今日は裏に新しく造った小屋の屋根を葺(ふ)いてくれ」

といいつけました。

外仕事と聞いた重右衛門は、いやーな顔をしながらも渋々と重い腰を上げ

「へえ、分りましただ」

とぼそぼそいいながら外に出て行きました。

これを見て、あっけにとられた旦那は

「重右衛門、その葺き方は違うよ。軒の方から葺くもんだ。それでは雨が漏るではないか。そんなことは子供でも分るだろう。馬鹿なことをするのー」

と強い調子でいいました。

すると、むっとした重右衛門はさっと仕事を止め、屋根から降りて来ました。そして、母屋の方に走って行こうとしました。

この様子に慌てた旦那は

「重右衛門、仕事中に何処に行くんだい」

といいながら、重右衛門を引き止めました。

これに対し、先刻からいらいらしていた重右衛門は

「旦那、旦那が葺き方をよくご存知のようだで、旦那がやればいいだべ」

と素気無い顔で応えました。

そして、重右衛門はさっさと母屋に引き上げました。

それから、その日は旦那がなんといおうと、それっきり囲炉裏ばたにどっかりと座り、ぬくぬくと暖まっていたということです。

それから、暫くたちました。旦那は、重右衛門の働き振りを見ようと思い、裏にやって来ました。重右衛門は小屋の屋根に上り、せっせと仕事をしていました。ところが近づいてよく見ると、屋根葺きは下の軒の方から萱（かや）を重ねるように葺いていくものを、あべこべに天辺の方から重ねながら葺いていました。

市内でもカヤ葺きの家は少なくなっている。

みんなのひろば サークル通信

かつては、「首振り3年コロ8年」と言われていましたが、今の人は音感が良くなっているので上達が早いといいます。

尺八には音を作る喜びがあります。

絲竹の会（しちく）
小室公民館

尺八、それに琴と三味線の演奏グループとして、昭和56年に発足しました。練習は、それぞれの楽器ごとに分かれて週一回、レベルに合せて個人指導をしてゆきます。尺八は不完全な楽器なので、音色が人の声に近く、しかも、自分で音を作る喜びがあるといいます。特に、これからの季節は、夜更けの尺八が心にしみるほどいい音を出すといいます。

（連絡先：金野鈴道　☎57－4703）

大人顔負けの反射神経

子供でもどんどん剣を持たせてフェンシングを楽しませます。

習志野台公民館
習志野台フェンシングメイツ

あまり細かいことは注意せず、小さい子供でもどんどん剣を持たせて、伸び伸びと楽しみながら、フェンシングというスポーツの感じをつかませる。これがサークルのモットーです。昨年の全国少年フェンシング大会小学女子の部でも、メンバーの小田紀恵さんがみごと優勝。習志野台フェンシングメイツの名を全国にとどろかせました。会長さんの夢は、オリンピック選手を育てあげることだそうです。

（連絡先：今　憲治　☎51－0138）

月謝は1500円。毎週金曜練習です。

楽しくも緊張する一瞬

丸山書道クラブ
丸山公民館

手本を正確に模写するだけではなく、書のなかで遊べるように（自分の作風を持てるように）なれば、書家として一人前だと言います。「現代書道」を中心に学んでいる丸山書道クラブは、昭和61年創立の若いクラブ。皆さんとても練習熱心な方ばかりで、家事の合間をぬって筆を持ったり、朝起きぬけに書いたり。そのためか、会員30人中、師範格の人が8人もいらっしゃるそうです。

（連絡先：雪元喜美子　☎38－6510）

カメラ講座
③生活を記録する

せっかく買ったカメラなのに、出番は月に1回。こんなことはありませんか。カメラは、行事や旅行を写すだけの道具ではなく、生活を記録する道具でもあります。例えば、家のなかで食事をする家族を撮影したとしましょう。出来上がった写真は、いつもの見慣れた風景ですから、それほど面白くないかもしれません。しかし、時間がお酒をおいしくするように、写真も時間とともに記録としての価値が増してゆきます。「あの頃は、あんなものが部屋のなかにあった」とか、「あの頃は、ジーンズがはやっていたっけ」などと、1枚の写真からその頃の思い出が広がります。お正月など家族が揃ったときに、毎年同じ場所にカメラを置いて定点観測するのもよいでしょう。また、お父さんの会社での様子もぜひ写して、家族の皆さんに見せてあげましょう。定年まで勤めあげてアルバムを開いてみたら、ゴルフと旅行の写真しか無かったなんて、ちょっと寂しいですよね。

引越しの前には家の中や外をくまなく写しておきましょう。

ペットインタビュー
オーナー　名取雪男さん（西習志野3）

人間の皆さん、ちょっとひどいじゃないですか。

先日、ご主人から好物のスイカをいただきながら聞いた話ですが、皆さんは、美しい羽を大きく広げて見せるのは、メスだと信じていらっしゃるようですね。

本当は、私たちオスのほうが美しく、メスの注意をひくために頑張っているんです。でも、毛が生えそろうのは12月頃。それまでお見せできないのが残念です。

ART
いつも次に何を作るか考えています

柳　ひろ子さん（駿河台1）

「うちのサークルは毎月違うものを作るんです。作り方が分からないときは講習会に出たりしますね。」柳さんは、飯山満公民館で活動している手芸サークルの代表。もともと手芸は好きでしたが、予育てが一段落した3年前、本格的に始めようとお友達7人と結成しました。

「月2回の活動で一つの作品に仕上げますから手の込んだものはできないんです。」と柳さん。ところが作品を見せていただいてその種類の多さと完成度の高さにびっくり。「個人的にはレザークラフトを先生について学んでいます。今のところバッグや財布が多いので大きな作品に挑戦したいですね。」手芸ばかりやっているとつい運動不足になるからとプールにも通っている柳さん。頭の中は次の作品のことで一杯のようです。

マイ ファッション
スポーティーなものが好きですね

鈴木　麻子さん（夏見5）

「短大まで制服でしたので通勤用の洋服を揃えるのが大変でした。」と笑顔で答えてくれた鈴木さんは、社会人2年目のフレッシュレディー。「シンプルなデザインのものが好きです。市内で買うことが多いですね。」プライベートタイムはスポーティーな服装が多いそうで、キュロットスカートがメインアイテムとか。嫌いな色は特にないという鈴木さん。今日は、これからお出かけということで、こげ茶のタイトスカートにサーモンピンクのフレンチスリーブのTシャツとスポーティーな中にもシックさを感じさせるコーディネート。靴に合わせたお気に入りのバッグがスッと服装になじんでいました。

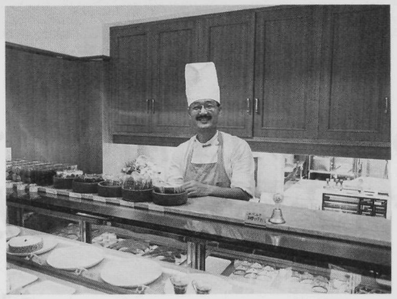
アイ・ラブ・フナバシ
日本の子供の本をスペイン語に訳してみたいですね

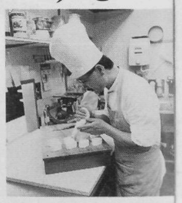
フローラ・オートローラ・藤田さん（西船4）

「日本に来て最初にフトンを見たとき、それが何だか分からなかったんですよ。」とにこやかにおっしゃるフローラさんはコスタリカ生まれ。15歳の時に家族でアメリカへ、そして、ご主人の喜三郎さんと出会い、結婚。4人のお子さんは全員アメリカで生まれました。12年前ご主人の仕事の関係で日本へ。「最初は、言葉が通じなくて買物するのが大変でした、でもみんな親切にしてくれましたので。」とフローラさん。普段の食事は、ご飯にみそ汁と純日本風。豆腐と納豆が大好物とか。現在、お子さんの通学している葛飾中学校で、PTAの役員をしています。「担当は、学区内のパトロールです。終わった後、みんなでお茶をいただきながらおしゃべりをするのが楽しいです。」本を読むのが好きというフローラさん。夢はすばらしい日本の子どもの本をスペイン語に訳すことだそうです。

ご主人
オーソドックスなケーキを良い材料で作っています

斎藤如一さん（本町6）





マンションやオフィスビルが林立するJR船橋駅北口。ケーキハウス「ジョイチ」は、そのビル街にあるマンションの一階にある。

「ここに移って2年になります。最初の店は市役所の近くでしたね。」ご主人の斎藤さんは、大学卒業後ケーキ職人を目指し、7年間の修業の末、昭和56年最初のお店を出しています。材料は特に吟味しているという斎藤さん。ちなみに卵は指定農場のものしか使用しないという徹底ぶり。現在、ケーキは16種類。「お客様はほとんど常連の方ですね。」という言葉からそのおいしさがうかがえる。お客様に合ったデコレーションケーキを作ってみたいとおっしゃる斎藤さん。その手から生み出されるケーキと同様、長くつき合いたくなる人である。

あとがき

■今月号でフォト編集に携わって3回目になります。取材で撮影してきたフィルムは全て広報課の暗室で現像、引き伸しが行われます。当初は、T氏にマンツーマンで教えてもらった作業がようやく一人で?。そして写真の難しさ、楽しさが少し分かりかけてきた今日この頃です。（二）

■昔からやってみたいスポーツの一つにフェンシングがある。スマートな防具とフランス語の合図には、泥だらけになるスポーツとは違った魅力がある。サークルの取材で伺ったところ、日本は剣道があるので世界でもレベルが高いそうだ。オリンピック選手を船橋から出す日はそう遠くない気がした。（司）

■市内で一日に出るごみは約530トン。これを市民一人当たりにすると約1kgになる。大量消費時代を迎えて、ごみの量も年々増加の一途だという。南部清掃工場の稼働により船橋市のごみ処理は平成8年までは大丈夫だそうだが、個人個人がもっとごみを減らす努力をしないと大変なことになると実感するこのごろである。（一）

■10月2日から市役所一階ロビーの大型画面のテレビで、ビデオ広報と衛星放送を放映いたします。ソフトは教育センターの視聴覚ライブラリーで自主制作したものやテレビ広報船橋だよりなどを中心に、なるべく市民の多く写っているものを中心に放映します。是非ご覧下さい。（雄）

8月24日から29日まで東武百貨店船橋店で開催された市美術展

9月9日(日)、海老川ジョギングロード沿いで行われた海老川自然観察会。普段目にとまらない野鳥や植物の息遣いを感じました。

9月9日(土)と16日(土)、市場小学校でゲートボール大会が行われました。これは、学校の特別活動の一環として行われたもので、学区内にお住まいの皆さんが学校の呼びかけに応じて協力。子供たちにゲートボールのコーチをしながらゲームを楽しみました。またＰＴＡの皆さんも点数係でお手伝いするなど校庭は３世代交流の広場となりました。

10月から市役所１階ロビーで広報ビデオと衛星放送を放映します

●場　所
市役所１階市民課前

●時　間（土曜日は①のみ）
① 午前10時～11時
② 午後２時～３時

問い合わせは
広報課☎36 2015へ

10月7日から ON AIR

毎週土・日曜日の朝は、FMラジオ広報です

『フナバシ・タウンクルーズ』
AM7：40 → 7：45

船橋市からのおしらせ
懐かしいポップス

78 MHz
エフエムサウンド
千　葉

PHOTOふなばし　第33号　発行　船橋市　平成元年９月　編集　船橋市広報部広報課　印刷　㈱総合印刷新報社